

年号	西暦	事項
文久 2年	1862	4月24日、土佐国佐川村の造り酒屋の一人っ子として生まれる。幼名・誠太郎。
慶応 元年	1865	父佐平病没。
明治 元年	1868	富太郎と改名する。母久寿病没。祖母に育てられる。
4年	1871	寺小屋に入る。その頃より山野の植物を研究(数え10歳)。
5年	1872	藩校、名教館で学ぶ。
7年	1874	小学校ができて入学する(数え13歳 現在なら小学6年)。
8年	1875	小学校にあきたらず、いつとはなしに退学、山野で一人植物の学習をする。
12年	1879	佐川小学校の代用教員となる(月給3円 17歳)。
13年	1880	代用教員をやめ高知の五松学舎で学ぶ。永沼先生の指導により植物採集をするが、コレラが流行したため佐川に帰る。
14年	1881	第2回国内勧業博覧会見学を兼ね、顕微鏡、参考書、購入に上京。文部省博物館で田中、小野両博士と知りあふ。日光、箱根、伊吹山で採集する。
17年	1884	二度目の上京で、理科大学植物学教室の矢田部、松村両博士と知りあい、以後教室への出入りを許される。 土佐でヤマトグサを発見。
19年	1886	東京、佐川間を以後数回往復する。佐川小学校にオルガンを寄贈、四国各地で採集する。
20年	1887	植物図出版のため石版印刷を学ぶ。『植物学雑談』を創刊する。
21年	1888	日本植物志図篇第一集を自費で発行する。そのため生活は苦しくなる。
22年	1889	ヤマトグサに日本ではじめて学名をつけて発表する(27歳)。
23年	1890	5. 11、江戸川、小岩村でムジナモを発見、日本て 咲いた花の詳細図には世界の学者がおどろく。 小沢寿衛子と結婚する。
24年	1891	矢田部氏より教室への立入りを断られ、ロシア(マキシモウィッチ博士の所)へ亡命しようとする。歓迎の便りをうけとったが、直後に同博士急死。亡命ははたせなかった。 仕方なく駒場農大で研究する。 12月家財整理のため帰省する。「高知音楽会」を作って西洋音楽をひろめる。
25年	1892	高知県下で採集をする。
26年	1893	長女死亡で上京。東京帝国大学理科大学助手(月俸15円)になる。 岩手県下をはじめ各地で採集活動をする(31歳)。
29年	1896	日清戦争後植民地となった台湾で採集をする(1ヵ月)。
33年	1900	『大日本植物志』を発行する。
35年	1902	ソメイヨシノ苗を五台山および佐川に送り移植する。
40年	1907	植物図鑑を出版、九州阿蘇山で採集する。
43年	1910	伊良古崎で採集する。10月「横浜植物同好会」を開く。
44年	1911	「東京植物同好会」を開く。その頃より採集指導や講演を次々にたのまれる(49歳)。
45年	1912	1月、東京帝大理学部講師となる(月給70円 50歳)。
大正 2年	1913	佐川に帰る。
5年	1916	2~3万円の借金ができたのでやむをえず標本を外国に売ってはらおうとしたが、池長氏の義挙により解消する。 その後池長研究所を作り、所長となり、標本30万点を置く(この頃「大阪植物同好会」をはじめたか)。 『植物研究雑誌』を創刊する。岡山で採集する。
9年	1920	吉野山で採集する。木村雄四郎氏同好会に入会する。
10年	1921	大日本植物図説の刊行に着手。借金がかさみ生活に苦しむ。
12年	1923	9月、関東大震災にあふ。
15年	1926	「東京植物同好会」の宣言、『植物研究雑誌』に印刷される。 「東京植物同好会」採集地、1月、横浜金沢、2月、神武寺、3月、鎌倉、4月、板橋新倉。 同好会の野外採集会の記録が『植物研究雑誌』に印刷される。東京府下大泉村に新築、居を移す(現在の牧野記念庭園)。
昭和 2年	1927	4月、容学博士の学位を友人のたつてのすすめでようやくける(65歳)。 木村、伊吹両氏同好会幹事となる。
3年	1928	寿衛子夫人没す。
5年	1930	4.13、同好会平林寺で採集、鐘楼で講演(『MAKINO』7号木村氏より)。
6年	1931	『植物の採集と標本の製作』本田、久内共著発行(内田老鶴園)。
7年	1932	同好会採集地、井の頭公園、高尾山、浮間原、葉山海岸(『MAKINO』8号伊藤氏より)。
10年	1935	『趣味の植物採集』牧野富太郎著(発行 三省堂)。
11年	1936	ソメイヨシノ見物に佐川をたずねる。
12年	1937	川村、笠原両氏入会(現幹事)。朝日文化賞をうける。
13年	1938	喜寿の会が催される。
14年	1939	東大講師を解任される(勤続46年)。
15年	1940	『牧野日本植物図鑑』を出版する(現図鑑初版 78歳)。
16年	1941	満洲国に植物調査に行く。安達潮花氏の寄贈により大泉に牧野標本館を建築し神戸より標本を移す。 太平洋戦争おこる。
18年	1943	9.19、同好会をムジナモ発見の地・江戸川でおこなう。
19年	1944	中村、鈴木、花房、遠藤、の四幹事のほかに笠原、川村の両幹事を加え同好会の強化をはかる。 10.8、同好会採集会、浅川(現高尾) 駅より初沢へ。 11月からはB 29爆撃機の来襲多く採集会続行は不可能になったもよう。
20年	1945	4月、牧野標本館近くに被弾、その一部こわれる。 5.28、葦崎郊外、穂坂村に疎開(富太郎、鶴代、澄子、川村氏つきそい) 8.15、敗戦の末、終戦。 10.24、大泉へ帰る。
21年	1946	4月、採集会再開場所? 5. 12、田無、6.7、石神井…… その冬豊島園で研究会を開く(紙不足で葉書も120×75ミリ角)。
22年	1947	12月、東大泉岸氏宅で室内会をする(燃料不足で会員は炭か炭団を持参して参加)。先生をリヤカーで送迎する。
23年	1948	10.7、天皇(昭和)に植物を御進講。
24年	1949	6.23、大腸カタルで危篤となるが、奇蹟的に回復する。 米寿祝(88歳)をする。その頃から野外採集が困難になり、室内で標本鑑定をしたり書き物をしたりする。
25年	1950	10.6、日本学士院会員となる。
26年	1951	7月、第一回文化功労者となる。『学生版牧野日本植物図鑑』発行。
27年	1952	満90歳の祝賀パーティをひらく(新宿中村屋)。
28年	1953	1月、老人性気管支炎にて重態となり東大治療内科の石崎先生などが泊りこんで治療にあたり、ようやく快復する。
29年	1954	12月、肺炎となり臥床静養にあたる。
30年	1955	床中にて『原色植物図譜』の完成を急ぐ。 5月、数え95歳の先生と家族は同好会を再開してほしいと希望する。 幹事で相談をかさね、川村、笠原、西幹事で名称も先生のお名前を永久に残すよう「牧野植物同好会」と改ため、7.10、再開。第1回採集会を久内先生の指導で、清瀬の森でおこなう。 朝比奈会長をえらぶ。その年採集会を5回開く。
31年	1956	1.23、新年会の集いを牧野博士宅でおこなう。病床にてロウバイの講義。 “花を褥に木の根を枕 花と恋して九十年”の染抜手拭を頒布する(褥、しとね、ふとんのこと)。 9月、東京開都500年事業として牧野標本記念館設置にのりだす。
32年	1957	1.18、牧野先生亡くなる(94歳8ヵ月数え96歳)。 従三位勲二等旭日重光章、文化勲章を授与される。 台東区谷中墓地に埋葬(分骨は生地佐川)。
33年	1958	1月または2月に室内会を行なうようになる。 12.7、牧野記念庭園完成記念の会が開かれる。 高知県立牧野植物園完成。
34年	1959	1月会は前年6月に完成した牧野標本館のある都立大学で行ない、同館を見学した。
37年	1962	4.22、牧野富太郎生誕百年記念会が行なわれた(牧野記念庭園)。
40年	1965	1.17、採集会で再開100回をむかえた。
45年	1970	11.1、166回より採集会を改め野外研究会とした。
47年	1972	1月、室内会で橋氏編集のスライド「同好会の記録」が上映された。以後毎年続く。
48年	1973	12.2、研究会で200回をむかえた。
49年	1974	9.12、佐藤達夫先生(植物研究家、元人事院総裁)亡くなる。 11.23、高知市牧野植物園に牧野先生の銅像立つ。
51年	1976	1月、科学博物館で室内会の折、谷中の牧野先生の墓を訪ねる。
56年	1981	4.12、久内清孝先生亡くなる。
57年	1982	11.28、研究会も300回をかぞえた。
58年	1983	1.15、久内先生の御遺志による寄付金で会報『MAKINO』を創刊する。 この年(会歴72年目)から委員若干名により、同好会の運営をすることになる。 小研究会をはじめ、この年の七草つみを第1回と定めた。
60年	1985	牧野富太郎博士展が練馬区主催で記念庭園を中心に行われた。当日先生の胸像除幕(大泉居住60年)。
63年	1988	11.22、高知県立牧野植物園創立30周年式典に幹事委員等も出席する。牧野標本館の整理を完了する。
平成 2年	1990	6.10、ムジナモ発見100周年記念碑立つ(江戸川小岩菖蒲園内)。
3年	1991	1.27、室内会をふくめて、研究会389回、小研究会34回実施(それぞれ1回ずつ雨天で中止)。 「東京植物同好会」から「牧野植物同好会」へと名称は変わったが創立80周年をむかえ、記念誌『MAKINO80』を発行する。